映画「泣きながら笑う日」DVD をお貸しします！！

映画「泣きながら笑う日」は、1976 年（昭和 51 年）に福山市を舞台に制作されましたが、フィルムの劣化が激しく、DVD 化し広く市民のみなさんにご覧いただけるようにしています。

DVD には、字幕や副音声も加えて制作してありますので、是非ご利用ください。

【利用対象の方】

広く皆さんに観ていただけるよう、個人・団体を問わずどなたでもご利用になれます。

【貸出可能な期間】

貸出日と当日及び返却日を併せて、３日以内とします。

（ただし、遠方等で発送希望による場合は、５日以内とします。なお、その際の送料等は、着払いで発送し、元払いで返却いただきます）

【視聴の際の注意事項】

研修会や個人での視聴を対象としていますので、多人数（概ね１００名以上）で視聴される場合は、上映権の問題も発生する場合があります。詳しいことは貸出希望時にお尋ねください。

【料金等】

貸し出しについて料金は必要ありません。貸し出し中の場合もあるため、あらかじめ、確認のうえ社協の各事務所までお越しください。

ただし、万が一紛失・破損等があった場合は、実費分として費用負担をお願いする場合がありますので、丁寧に取り扱いください。

【その他】

DVD は非売品ですので販売はできません。また、複製することや、営利目的での使用等は禁止しています。

お問い合わせ先
福山市社会福祉協議会　総務課
住所　720-8512　福山市三吉町南二丁目 11 番 22 号
電話　(084)928-1330　ﾌｧｯｸｽ（084）928-1331

映画　泣きながら笑う日

私達は
自分の痛さとともに
他人の痛さもわかる気持ちを
持たねばならない。

○解説○

この映画「泣きながら笑う日」は、若い夫婦がおたふく風邪の我が子がカナマイシン(風邪薬)によって難聴になったことを知らされ、わずかばかりの家財道具をトラックに積み、親・兄妹とも別れ、日本で唯一、保育所から中学校まで一貫した難聴児教育施設のある福山市へ辿り着き、何度も傷つき・つまづきながらも体当りで、ついに我が子の「いのちの叫び」を聞くまでに至った、感動の物語です。

この映画は、核家族化の中で失われつつある親の愛と教育とは何かを人々にグサリと突き付けています。

松山監督はこの映画を、「本来、福祉とは他人の痛みがわかることである。この映画は難聴児を描いたのではなく、補聴器よりも大切で必要なのは人々のやさしさであり、心の窓であり、痛みのわかる友人である。」と提起したかったと語られています。

主人公を演じた坂本九さんは、「私も二児の父となり、この映画ほど身にしみるドラマはない。」、その妻を演じた大谷直子さんも、「一児の母となった私の生き様、私そのもののような気がする。」と、手に手をとって血みどろの苦闘を続ける若い夫婦役に熱演を見せています。

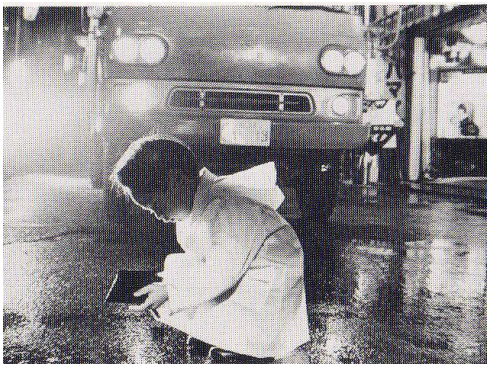
この作品には,
映像・台詞の一部に現在では不適当と思われる表現もありますが，作品の歴史的価値を重視し作品完成時の原版のとおり収録しております。
ご了承ください。

脚本
監督　松山善三
坂本九
大谷直子
上村和也
緒形拳
中田喜子
草笛光子
小林桂樹
高峰秀子

企画
「泣きながら笑う日」制作委員会

製作
「泣きながら笑う日」制作プロダクション

協力
福山市
京都映画株式会社



この映画は多くの人々の善意で制作されました。

1965年(昭和40年)、当時わずか7人の親の会が難聴学級の開設を訴え、市議・教師・行政など多くの人々の心を動かし、県下初の難聴学級が西小学校に誕生しました。その後、親の会の発展とともに、福山市は日本で唯一、保育所・幼稚園・小学校・中学校と一貫した難聴児教育制度を実施することとなりました。

「名もなく貧しく美しく」「われ一粒の麦なれど」など障害福祉に鋭い眼を向けられていた松山善三監督は、福山を訪れた際、この十年間の歩みに心を動かされ、親の会・教師・医師の共鳴にわたり福山に来られ、障害を乗り越えていく親の姿や真剣な教師の指導などの実能に触れられました。

1974年(昭和49年)10月、福祉・教育団体を中心に、立石定夫市長(当時)を名誉会長、門田武雄社会福祉協議会長(当時)を委員長とする制作委員会が結成され、市民の力で映画作りを進めるという他に類例を見ない体制が出来上がりました。

映画作りには、大きな壁が2つありました。1つは出来上がる映画の内容のことであり、もう1つは制作資金8千万円の募金活動でした。シナリオの初稿が出来上がると制作委員会を中心に親の会・教師と再三にわたり内容の議論を重ね、松山善三監督も題名変更をはじめ、3回にわたってシナリオを書き換えられました。また、資金の問題は一時制作を延期したことも重なり目標の半額から伸び悩みました。

しかし、「ひとりの真実の訴えが多くの人々の共感を呼び、その力が結集されるなら大事も成し遂げられる」の門田制作委員長の信念を持って自ら先頭に立ち東奔西走、市民をはじめ全国からの多くの人々の善意を得て、目標額を突破することができました。

そして、坂本九・大谷直子という異色キャストを得て、福山ロケから撮影を開始し、京都の撮影所に舞台を移して完成しました。

「泣きながら笑う日」制作委員会

※当時・敬称略

[名誉会長]
福山市長
立石　定夫

[顧問]
前福山市議会議長
滝川　弘
脚本・監督
松山　善三

[委員長]
福山市社会福祉協議会長
門田　武雄

[副委員長]
福山市難聴児親の会名誉会長
荒木　計三
福山市連合民生児童委員協議会長
後藤米太郎

[事務局長]
福山市立城北中学校長
近藤　通珍

[事務局]
福山市社会福祉会館長
上田　政雄
藤本興業㈲専務取締役
佐藤　芳紀
福山青年会議所理事長
土生　康平
福山市難聴児親の会
西馬　孝夫
福山市教育委員会学校教育課長
井上　琢ニ
福山市教育委員会
池口　義人
書記
山口　琴美

[監査]
福山市総務局長
広川　茂夫
福山市難聴児親の会長
矢吹　武美